

常総市出身(上蛇町・26歳)慶野 智子さん

日本画で2年連続日展入選

10月26日に発表された改組新第4回日展の第1科(日本画)において、上蛇町出身の慶野智子さんが入選しました。昨年に続き、2年連続の入選となりました。



新日展第4回入選作品「常しなえ」



新日展第3回入選作品「異端児」



日本画家として活躍する慶野さん

慶野さんは、両親の勧めで小学生の時から絵画を学びました。五箇小・鬼怒中を卒業後、女子美術大学付属高等学校に進学。女子美術大学、同大学院では日本画を専攻し、数々の賞を受賞しています。現在、鳥をテーマに制作しており、岩絵の具や墨で描く繊細な絵は高い評価を得ています。

現在は、同大学に残り助手として自らの腕を磨きながら、後進の育成にも力を注いでいます。

「これからも、制作を続けていけるように精進してまいります」と話す慶野さん。これからも、ますますのご活躍を期待しています。そして、市内で慶野さんの個展を開催できる日を楽しみにしています。

プロフィール

平成22年3月	女子美術大学付属高等学校 卒業
4月	女子美術大学 入学 芸術学部日本画専攻
24年7月	「ヒメゴト」が第4回ビエンナーレうしく入選
9月	「虚無」が全国美術大学奨学日本画展2012 準大賞
25年8月	「境界」が全国美術大学奨学日本画展2013 奨励賞
10月	「孤高」が茨城県芸術祭 入選
26年3月	女子美術大学 卒業 卒業作品「ゆらぎ」が加藤成之記念賞
4月	女子美術大学大学院 入学 修士課程日本画専攻
28年3月	女子美術大学大学院 卒業 修了作品「相望」が大久保婦久子賞
9月	「視線」が第29回上野の森美術館 日本の自然を描く展優秀賞
11月	「異端児」が改組新 第3回日展 初入選
29年4月	「琴線」が第1回新 日春展 初入選
11月	「常しなえ」が改組新 第4回日展 入選



制作中の慶野さん



「アジサイ」



「琴線」



「虚無」

慶野智子さんの主な作品

日展とは

日本美術展覧会の略。日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5つの部門からなる総合美術展で、世界でも類を見ない規模の公募展です。全国各地から、10代の学生や社会人、100歳にいたるまで幅広い年齢の方が応募し、その中から厳しい審査を経て選ばれた作品が陳列されます。

明治40年、当時の文部大臣だった牧野伸顕は海外の文化に肌で触れ、日本の美術の水準をもっと高めたいという夢を抱き、第1回文部省美術展覧会(文展)を開催しました。この文展を礎とし、以来、時代の流れに沿って「帝展」「新文展」「日展」と名称を変え、常に日本の美術界をリードし続けてきた日展は110年の長きに渡る歴史を刻んできました。

平成26年に、組織改革に伴って「改組新 第1回日展」と改め、開催しました。

日展東京会場展は、99年間にわたり上野の東京都美術館で開催していましたが、日展100年目を迎えた平成19年からは、六本木に開館した国立新美術館に会場を移しました。今年は、12月10日まで開催しています。

◆東京会場終了後、日展は一部の作品のみで来年6月まで全国4か所を巡る「巡回展」が開催され、慶野さんの今回の入選作品「常しなえ」は、その「巡回展」にも選ばれました。

